



No. 26

2010 - 5 - 22

日本蜘蛛学会



## インフォメーション

### 日本蜘蛛学会 第42回大会・総会のお知らせ

2010年度の日本蜘蛛学会大会・総会は東京環境工科専門学校（東京都渋谷区）で実施いたします。

概要は以下のとおりです。詳細については、後日、あらためてお知らせいたします。以下のHPでも随時情報を更新する予定です。

<http://kakureobi.sakura.ne.jp/ASJ/42.htm>

- 会場：東京環境工科専門学校  
(150-0011 東京都渋谷区東2-5-3)
- 日程：2010年8月21日(土)・22日(日)[役員会を20日(金)に開催]

・20日(金)

13:00-14:00 編集委員会

14:00-16:00 評議員会

16:00-17:00 自然保護委員会

17:00- 有志によるクモ映像放映会を予定しています

・21日(土)

10:00- 一般講演

13:00- 総会

14:00- 一般講演・シンポジウム(計画中)

18:00- 懇親会

・22日(日)

10:00- 一般講演

(上記の時刻は変更されることがあります。また、ポスター発表も予定しています。)

● 宿舎について：今回は、参加者の宿舎について大会準備事務局ではお世話いたしません。各自で、宿舎を確保していただきますようお願いいたします。JR「渋谷」駅東口から大会会場(東京環境工科専門学校)までは徒歩で約15分、バスで約8分です(都営バス54番乗場から「学03系統日赤医療センター行」、國學院大學前バス停下車)。

渋谷駅から学校までの道のりがやや複雑ですので、なるべくバスの利用をお勧めします。

● 参加費用：一般：5,000円 学生：3,000円(学生に該当するのは、大学生、大学院生、研究生等です。懇親会費は6000円。)

● 問い合わせ先：

150-0011 東京都渋谷区東2-5-3

東京環境工科専門学校内

日本蜘蛛学会 第42回大会 大会事務局

加藤輝代子・吉尾政信

電話 03-3409-3288 (呼出)

電子メール spider@tce.ac.jp



## 同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発

行されている定期刊行物の内容、採集会や講演会（総会・例会）の日程などを紹介する。興味を持たれた方は入会したり、行事に参加されてはいかがでしょうか。

#### 【同好会紹介】

今回から数回にわたって各同好会の紹介コーナーを設けます。

#### 中部蜘蛛談話会の紹介

中部蜘蛛談話会は 1969 年に創立されました。年一回発行の会報『蜘蛛』は 1970 年 8 月に創刊され、2009 年には通巻 42 号を発刊しました。この会報はやや専門的な感が強いのではないかと、初心者向け用に観察の楽しさや野外識別方法、さらに事務連絡もかねて、通信『まどい』を 1993 年 2 月に創刊しました。年 3 回を基本とし、2009 年 12 月には No.51 号を発刊しました。それまでは正会員制(年会費 3,000 円)だけでしたが、『まどい』のみ配布する準会員制(年会費 1,000 円)を新たに設けました。表題のように、多くの会員が集まりますように、と願いが込められています。この 2 本立てにより、会としてより一層底辺を広げることができ



図 1 総会で「糸が紡ぐ世界」を講演される新海明さん 2010 年 2 月 11 日 東桜会館にて



図 2 三重クモ談話会との合同一泊観察会での参加者一同 2009 年 7 月 26 日 岡崎市暗苅溪谷にて

るのではないかと確信しています。2009 年現在、正会員は 65 名、準会員は 28 名です。

総会は毎年 2 月 11 日（建国記念日）に固定しています。交通の便を考えて名古屋市内（ここ数年は東桜会館）で開催しています。県内はもとより県外からも多数の参加があり、日本蜘蛛学会を代表する方々の特別講演や、会員諸氏の研究発表など、地方の小規模学会的な雰囲気ただよっています。総会後の懇親会も盛り上がっています。

観察会は年 4 回を実施しています。それぞれの担当者が現地を案内し、コースを歩きながらクモウォッチングをおこない、最後は復習もかねて記録されたクモを出し合い、いわゆる「クモ合わせ」をおこなっています。クモだけではなく、眼にはいる昆虫や植物などにも興味が沸き、それぞれ得意分野とする方の言葉が飛び交っています。生物の名前「知る」ことは実に楽しいものです。

三重クモ談話会との共同開催で、7 月下旬の土日を利用して、年 1 回の一泊観察会を計画しています。本会との各年持ち回り制ですから、宿泊地は三重県や愛知県になりますが、近隣の岐阜県や長野県も候補地にあがります。普段は中々観られない種類の生息地を案内していただ

けるので、非常に満足感が味合えます。それに、観察中や夜の懇親会での会話が実に楽しいひとときです。知識を得るのは書籍や専門書だけではなく、人との結びつきが人生観をより豊にしてくれる。と信じています。

最近ですがHP(<http://ckumo.wed.fc2.com/>)ができました。ぜひ、中部蜘蛛懇談会の活動も覗いてみてください。

(本会代表：緒方清人)

中部蜘蛛懇談会(代表：緒方清人)

会報「蜘蛛」を年1回、「まどい」を年3回発行。採集会を年2~4回。総会・研究会を年1回実施。

蜘蛛(KUMO)43号

2010年8月発行予定です

採集会

5月30日(日) 午前10時40分~午後3時  
犬山市今井・喜八洞周辺。今井丸山バス停付近  
集合。担当：須賀瑛文

名古屋バスセンター4F3番から9時35分発  
可児車庫行き(桃花台・愛岐ヶ丘経由)  
今井丸山バス停で下車(会員については、名鉄  
犬山駅からの送迎有。要事前連絡)

6月27日(日) 午前10時~  
フォレストヒルズ内トヨタの森周辺(豊田市岩  
倉町。フォレストヒルズ内P5駐車場集合。担  
当：大原満枝・杉山時雄

7月11日(日)豊田市自然観察の森 担当：  
緒方清人

7月31日~8月1日 三重蜘蛛談話会との  
合同合宿。担当：太田定浩

9月 名古屋市内詳細未定 担当：柴田良成  
会員以外の方のご参加も大歓迎です!

総会・研究会は2011年2月11日(金)を予定。

入会申し込み他

全般について

〒472-0022 知立市山屋敷町東山10-6

緒方清人(代表)

Tel 0566-83-4474

E-mail:neon\_kiyotoi@ybb.ne.jp

入会・会費など

〒451-0066 名古屋市西区兎玉1-8-24

柴田良成(会計)

Tel 052-522-1920

会費

正会員 年3000円(高校生以下1000円)

準会員 「まどい」のみ1000円

東京蜘蛛談話会(会長：新海栄一)

会報「KISHIDAIA」を年2回、「談話会通信」  
を年3回発行。採集会年4回・合宿年1回・総  
会例会などを年2回実施。

今年度の採集会は、東京理科大学理想記念自  
然公園で行います。

5月16日(日) 7月11日(日)

10月10日(日) 2月13日(日)

東武野田線「運河」駅改札前10:00集合。世  
話人：八幡明彦

例会は、

11月に午前10時から東京環境工科専門学校で  
実施。詳細未定。

KISHIDAIA 97号(2010.3.31発行)

池田博明：ヒメグモのオス間闘争

西野真由子：ジョロウグモの複数回産卵と繁殖

及び出のうに影響を及ぼす要因

池田博明：繁殖期のヒメグモの生息する高さ

池田博明：ヒメグモの和名について

藤澤庸助：ミヤマナンキングモ多産地点との出会い

新海 明：「京都から越後へと」イソコモリを求めて

#### DRAG LINES

中島晴子：アズチグモから線虫が出た

平松毅久：ジョロウグモの網に入っていたク

ロマルイソウロウグモ

平松毅久：子グモがふ化するまで卵のうを守る？マルコブオニグモ

谷川明男・新海 明：イソコモリグモは、福島県にはどこにもいないが、茨城県高萩市にはたくさんいる

谷川明男：ムツトゲ日誌のムツトゲ成長記録

池田博明：ジョロウグモがジョロウグモを捕食

山本一幸：シロオビトリノフンダマシの卵のう作成

山本一幸：産卵直後に交接をしたエゾアシナガグモ

高津佳史：ゴミグモの巣上で吸汁したヤマトシリアゲの観察例

高津佳史：ヤマトウシオグモは昼間何をしているのか？

新海 明：安芸の宮島で見たキシノウエのようなキノボリの住居

藤澤庸助：ジョロウグモの耐寒力に関して- たったの2例からですが

馬場友希：5月におけるコゲチャオニグモ成体の採集例

笹岡文雄：東京・世田谷区で採れたマルゴミグモ  
武田勇人・谷川明男：ウシガエルに食われたクモ

藤澤庸助：ギンメッキゴミグモも北上顕著か？

笹岡文雄：宮城県仙台市におけるキシノウエ

トタテグモの分布状況

平野健一：福島県でのアカオニグモの採集記録

馬場友希・栗原 隆：福島県檜枝岐村で採集されたクモ

馬場友希・栗原 隆：山梨県鳴沢村で採集されたクモ

馬場友希：沖縄本島で採集されたクモ

馬場友希・吉武 啓：茨城県南部で採集されたクモ

馬場友希・吉武 啓：岩手県岩泉町で採集されたクモ

笹岡文雄：伊豆諸島・新島のクモ類

笹岡文雄：伊豆諸島・八丈島におけるトタテグモ類とその他のクモ

馬場友希：千葉県松戸市「21世紀の森と広場」のクモ

三谷 進・谷川明男：香川県各地のクモ類の採集記録

荘司康治郎：東京都立石神井公園のクモ

馬場友希・吉武 啓・平館俊太郎・楠本良延・栗原 隆・吉松慎一：茨城県南部の農地で採集されたクモ標本目録

入会申し込み

〒186-0002 国立市東 3-11-18-201

(有)エコシス

初芝伸吾 (事務局)

Tel 042-501-2651

E-mail:hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

会費 年3800円(学生 2000円)

関西クモ研究会(会長:田中穂積)

会報「くものいと」を年2回発行.採集会・研究会例会などを年数回実施.

採集会

5月23日 生駒市乙田町

9月26日 生駒市乙田町

くものいと43号(2010年2月発行)

加村隆英・西川喜朗：環境アセスメントのための  
クモ類調査の手引き

吉田 真：カトウツケオグモの分布記録

榎元敏也：はしご網ができる理由

池田幸二：走れ！ポストマン IN KOREA

田中穂積：大阪府のクモ類の一部訂正

西川喜朗：青森県のクモ類採集記録

関根幹夫：熊本と和歌山海南市のクモ相撲

吉田 真：マダガスカル紀行1

吉田 真：マダガスカル紀行2

吉田 真：マダガスカル紀行3

関西クモ研究会採集会の記録

山田廣士：秋の採集会に参加して

坂口佳史：採集会に参加して

例会は、2010年12月19日(日)に四天王寺  
高校で実施。

入会申し込み

〒567-8502 茨木市西安威2-1-15

追手門学院大学生物学研究室内

関西クモ研究会 Tel 0726-41-9550(加



関西クモ研究会2009年度例会

村研) Fax 0726-43-9432(大学教務課)

会費 年1000円

三重クモ談話会(会長：橋本理市)

会報「しのびぐも」を年1回発行。採集会・合  
宿・例会などを年数回実施。

しのびぐも36号(2009年6月30日発行)

内容は遊絲25号参照

採集会

6月27日(日)大台町宮川ダム周辺

JR松阪駅表玄関9時集合

7月31日(土)~8月1日(日)亀山市周辺

中部蜘蛛懇談会との合同開催

9月26日(日)大台町三瀬谷宮川流域

JR松阪駅表玄関9時集合

11月28日(日)度会町宮川流域

JR伊勢市駅表玄関10時集合

2月27日(日)年度末活動まとめと情報交換

の会 津市白山町猪倉温泉

近鉄榊原温泉口10時集合

いずれも参加希望者は必ず1週間前までに事  
務局に連絡ください。

入会申し込み

〒515-0087 三重県松阪市萌木町7-4

貝發憲治(事務局)

Tel(Fax)0598-29-6427

会費 年2000円

関西クモゼミ

会費などなく誰でも参加できる。

連絡先 吉田 真 077-561-2660

東京クモゼミ

毎月1回、第1日曜日に千葉県市川市の加藤宅

で開催．会費などなく誰でも参加できる．

連絡先 新海 明 0426-79-3728

または、加藤輝代子 047-373-3344

メーリングリスト「クモネット」

会費などなく誰でも参加できる．入会の申し込みは谷川明男まで e-mail で．

dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

## 言いたい！聞きたい！



ハエトリグモの論文再読（５）

### 世界で最初に記載された ハエトリグモ

池 田 博 明

ジョスリン・クレインの大論文は全訳をなんらかの形で出そうと思うので、前回の続きに相当する「クレインのハエトリグモ研究（下）」は後回しにして、今回は世界で最初に記載されたハエトリグモを扱う。

近代分類学の開祖はスウェーデンの博物学者リンネ（1707年生まれ）である。植物名に関してはリンネの『植物の種 Species Plantarum』（1753年）、動物名に関しては『自然の体系 Systema Naturae』第10版（1758年）を最初とする約束になっている。したがって、最初にクモを二名法で記載した人はリンネだろうと予想が立てられる。ところが、クモの場合にはそうはいかないのだ。リンネより先に二名法でクモをきちんと記載した人がいて、そ

の学名が命名規約上、有効とされているのである。

その人はカール・クラーク Carl Alexander Clerck で、刊行物はスウェーデンのストックホルムで出版された『Svenska spindlar（スウェーデン語で「スウェーデンのクモ類」という意味。ラテン語タイトルが Aranei Svecici』（1757年、Salvius 刊）である。出版は1757年だが命名規約上の日付は1758年1月1日。なお、この本にはリンネが推薦文を寄せている。

Wikipediaによると、クラークは1709年生まれ（1710年という記事もある）のスウェーデンの昆虫学者・クモ学者。没年は1765年7月22日である。17歳のときにスウェーデンのウプサラ大学（1477年創設の北欧最古の大学）に入学した。在学中に2歳年上のリンネとコンタクトがあったかどうかは知られていない。大学を卒業後は政府機関に勤め、晩年はストックホルム市役所で働いていた。もともと自然観察には関心が強かったらしいが、1739年、30歳のときにリンネの講義に影響され、翌年からクモの採集と分類を開始、行動観察も合わせて研究し、16年後に上記著作にまとめあげた。リンネの推薦もあって1756年にウプサラのロイヤル・ソサエティ・オブ・サイエンスの会員に選出されており、亡くなる直前の1764年にはロイヤル・スウェディッシュ・アカデミー・オブ・サイエンスの会員にも選ばれている。チョウの図説の刊行も始めたが、第三巻まで出版したところでクラークは亡くなってしまい、未完に終わった。

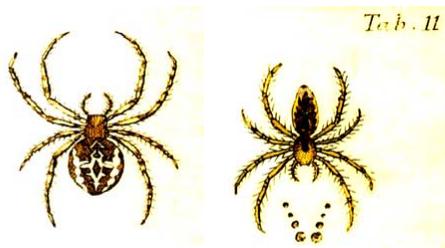
『スウェーデンのクモ類』は、オックスフォード大学が提供して2008年12月に電子化されているため、誰でもオンラインで読むことができる。ちなみに現物を古書市場で購入すると、18万円くらいである（2000年当時）。

ページの上半分はスウェーデン語による記載で、下半分はラテン語による記載。スウェーデン語だけの記載だったら普及しなかっただろう。あらためて西洋の科学、特に分類学に果たしたラテン語の役割の大きさが感じられる。もっとも、自国語で記述するというのも科学では大切なことであり、ガリレオの『星界の報告』『天文対話』などはイタリア語だったから普及した。

巻末には手彩色のプレート（図版）が6枚ある。最初はオニグモ類の記載で始まる。北欧の代表的な種類が取り上げられているため、オニグモ類などは背面図だけでも同定可能である。日本と共通の種類も結構あり、ニワオニグモ、キバナオニグモ、コウモリオニグモ、ナカムラオニグモ（本稿冒頭のクモが上向きの図参照）、キタノオニグモ、ナガテオニグモなどが目につく。

円網種を過ぎると、ヤマジサラグモ、イエタナグモ、イナズマクサグモ、アキヤマコモリグモ、チリコモリグモ、カイゾクコモリグモなどが出ている。この辺は図だけで正しく同定するのは無理だが、ときどきオスの触肢が図に添えられている。カグヤヒメグモの類似種 *Araneus lunatum* には外雌器の図が添えられている。クラークは眼の配列にも注目しており、おそらく単眼の解剖顕微鏡ぐらいは使ったのではないだろうか。

記載文と図を合わせて見ていくと、ハエトリグモは主にプレート5に出ていた（以下、クモが下向きの図）。プレート5の図11に *Araneus hastatus* , 図12に *Araneus muscosus* , 図13に *Araneus scenicus* , 図14に *Araneus striatus* , 図15に *Araneus terebratus* , 図16に *Araneus v-insignitus* , 図17に *Araneus v-notatus* , , 図18に *Araneus flammatus* , 図19に *Araneus falcatus* が記載されている。



Tab. 12

Tab. 15



Tab. 15

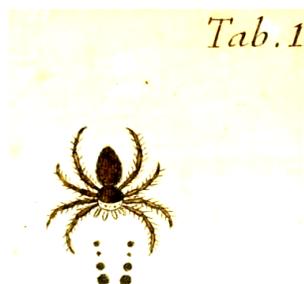
Tab. 16



Tab. 18



Tab. 19



Tab. 1

そしてプレート6の図1に *Araneus arcuata* だった。この時代は、クモはすべて *Araneus* 属である。

それぞれ現在の学名と和名は、図11 *Dendryphantas hastatus* カラスハエトリの近縁種、図12 *Marpissa muscoca* オオハエトリの近縁種、図13 *Salticus scenicus* ゼブラハエトリ(ヨーロッパ種)、図14 *Icius striatus* 同定不能な疑問種、図15 *Sitticus terebratus* コゲチャハエトリの一種、図16・17 *Aelurillus v-insignitus*(*A. v-notatus* は *A. v-insignitua* の同物異名) ヤマジハエトリの近縁種、図17は図18・19, *Evarcha falcata* (*E. flammata* は *E. falcata* の同物異名) ホオジロハエトリの近縁種、プレート6の図1は *Evarcha arcuata* シッチハエトリと認識されている。ハエトリグモの単眼の特殊な配列を示した図がある(プレート5の図11・図12・図14、プレート6の図1)ほか、記載文の眼に関する箇所ではハエトリグモにだけ「光沢があり、輝く」といった形容詞が使われている。

プレート6のヨーロッパ・日本の共通種にはヒメハナグモ、プチエビグモ、コガネエビグモ、ツググモがあった。全体を通してみると、造網性から徘徊性へと配列されており、現在の科に相当するグループ分けがされていることが興味深い。リンネの分類には科(ファミリー)という分類規準が無かったのだが。

ところで、リンネが1758年に記載したヨーロッパ・日本の共通種は、アシダカグモ、ハラビロアシナガグモ、タイリクコモリグモ、アシハグモ、マユミテオノグモなどであった。

いまから250年も前のひと同じクモを見ているというのはなんだか感慨深いものがある。文献について新海栄一氏にお世話になった。

#### 【参考文献】

- Clerck, C.A., 1757. Svenska spindlar, Aranei Svecici. Salvius.  
小野展嗣編, 2009. 動物学ラテン語辞典。ぎょうせい。  
Proszynski, J. 2007. Monograph of the Salticidae of the World. ウェブ上。  
谷川明男, 2003. 日本産クモ類目録 Ver.2003 R1. ウェブ上。

## 吉備真備を蛛(クモ)が助けた

池田博明

天平の右大臣・吉備真備が遣唐使だったときの、唐の皇帝との知恵比べを描いた「吉備大臣入唐絵巻」は後半部分が失われている。その復元の様子を報道するNHKのテレビ番組「吉備大臣入唐絵巻の謎に挑戦」が、2010年4月29日午前9時から45分間放送された。

この番組によると、唐の皇帝が出した難題「野馬台詩」解説を蜘蛛が助けたと『江談抄』に書かれているという。「野馬台詩」は予言詩で日本の滅亡を描いているが、文字がバラバラに綴られているため判読が難しい。難解な詩を前にして神に祈った吉備の前に一匹の蜘蛛が下りて来て、詩の文字の上を歩き、その歩いた順序を助けて吉備は詩を判読できたと言い伝えられているという。現代の研究者や日本画家によって復元された絵巻の後半部には詩文の上を糸を引いて下りた蜘蛛が歩いている様子が描かれている。

6月のNHKの番組「ダーウィンが来た！」(総合テレビ日曜日 19:30 から)でムツトゲイセキグモが主人公の番組が放送されず。現時点では放送日未決定です。

## イソコモリグモの見つけ方

新海 明・谷川明男

2007 年からイソコモリを求めて日本各地の海岸を歩き回っている。50 歳を過ぎての海岸めぐりは、「伊能忠敬みたいだね」と大学時代の友人に冷やかされた。イソコモリの生息環境や調査法に関してはすでに徳本(2006)によって報告されている。ここでは、3 年間にわたる調査経験から感じた「イソコモリの探し方」について述べてい。

### A. 採集地の選び方

私たちははじめ八幡明彦さんが徳本・鶴崎さんの報告を元に作成した GIS データに基づき調査していたが、その周辺で行う任意の調査では経験上の「カン」に基づいて行っている。ここで紹介するのは後者のものである。

#### 道路図によるもの

県別道路図でおおよその目的地付近のページを開けて、道路が隣接する海岸で砂浜マークが記入されているところか海水浴場マークがある場所を探す。

#### 実際の景色を見ながら

海岸沿いをはしる道路から海辺を眺め、砂浜が見えるところ(アタリマエか)。ただし、実際には道路から海辺が見えないことも多く、そのときには大小の橋を渡るときに河口付近に目をやり、砂浜が見えるところを探す。

### B. 巣穴の探し方

砂浜に下りたら海浜植生帯があるところを中心に、砂の上を開く穴を探す。穴があったら付近に落ちている細めの枯れ枝で穴の縁を内側からそっとこすりあげてみよう。このとき糸の感触があれば「イソコモリ」だ。糸の存在がなく縁が崩れ落ちたら「違う」巣穴だ。これがもっ

とも信頼がおける確認法だ。

しかし、巣穴が閉じていることもある。幼体の場合、閉じていたら探すのは不可能だが、成体ならば砂の上に痕跡がある。詳細は谷川さんとの別の報告を見ていただきたい(谷川・新海 2010)。簡単に言えば、秋なら「菊の花びら」状の砂模様。初夏なら「こんもり盛り上がる」砂を探すことだ。

### C. その他

複数の方から、「イソコモリは昼間には探せない。夜間調査をしなければダメだ」というアドバイスをいただいた。しかし、われわれは夜間調査をしたことは一度もない。熱心な愛好家からは怒られてしまいそうだが、夜は飲み屋のテーブルにつくか、宿の湯船につかるばかりだ。お許しを。けれども、昼間だけの調査でイソコモリを十分に探し出してきた。「いやいや、見つけられなかった浜もあったじゃないか」と反論されそうだ。生意気を承知で言わせてもらえば、その浜には「いなかった」のだ。実際に、今までの調査で時期(5-6月)といい、環境(景観や浜の状態)といい絶好なのに 1 頭も探せなかった浜もあった。その日、それ以前にはたくさん探し出してきたにもかかわらず、である。やはり、その浜には「いなかったのだ」としか思えないのだ。

### 引用文献

徳本 洋 2006. イソコモリグモの減少率算定へのアプローチ。遊糸, 19:6-12.



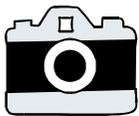
ここにイソコモリが隠れている

## 採集情報

日本各地で採集された稀産種や、都道府県初記録、島初記録、南限更新、北限更新など分布上の重要情報について掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

コウライハエトリ 長崎県北松浦郡佐々町  
2009年9月19日 1M 山崎茂幸

(新海 明・谷川明男集約)



## ギャラリー



撮影：本多佳子

「昨年の東京蜘蛛談話会合宿（長野）中に撮影したマユゲハエトリ、ではなくマダラスジハエトリです。凛々しい表情をしています。」

遊絲に奮ってご投稿ください。採集旅行記、小観察、採集記録、とっておきの写真などクモやクモにまつわる話などなんでもけっこうです。

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tknw@j.asahi-net.or.jp (谷川明男) まで

発行は、年2回(5月、11月)の予定。締切は発行月の前月末日です。

## 日本蜘蛛学会

入退会は

庶務幹事

奥村 賢一

〒853-0041 長崎県五島市籠淵町400-3

Tel 0959-72-6223

E-mail: coelotes@cc.hid.nida.or.jp

会費の問い合わせ及び変更は

会計幹事

平松毅久

〒350-0816 埼玉県川越市上戸189-40

スプリングビレッジ 棟202号

Tel 042-501-2651

年会費 正会員 7000円(学生は5000円)

郵便振替口座 00970-3-46745

---

遊絲 第26号

2010年5月22日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 鶴崎展巨

---